

まちなか・子ども基地運営委員会

活動のテーマ：まちなか・子ども基地「自然の循環体験ひろば」づくり

キーワード

中心市街地 子どもの居場所 環境学習

団体・活動概要

団体は、「エコネットワーク津山(発足時の名称はエコネット津山)」と「津山まちづくり本舗」の両団体の有志によって2004年11月に発足した。商店街にある空き店舗と空き地を活用した「まちなか・子ども基地」を開設して昔の商店街のような、まちなかでの子どもの居場所づくりに取り組んでいる。団体のもとになった「エコネットワーク津山」は、津山市が開設した資源ゴミのリユース施設「リユースプラザ津山『くるくる』」の運営母体として2000年に発足し、市民、行政、事業者等のネットワークを通じた環境活動を実施している。地域通貨を活用した資源循環や啓発事業の他に、廃食油を燃料化しコミュニティバスに利用する実験等も行っている。もう一方の「津山まちづくり本舗」は、2003年に市民団体や商業者約60人で結成された市民組織で、「まちなか・回帰！」をキーワードに津山市の中心市街地の活性化や子どもをテーマとした活動に取り組んでおり、当団体の活動は、この「津山まちづくり本舗」の子どもをテーマとした活動の中から生まれた。

助成年度の活動概要

2005年度末に団体が拠点としてきた空き店舗と空き地を津山市が取得し、まちづくりの拠点として整備することになったことから、その事業と連携して団体は、まちなかに環境学習の拠点づくりを行うこととした。

具体的な活動

1. ひろばでの環境学習活動の展開
ラビリントづくり、自然エネルギー啓発イベント開催、菜園づくり、バケツ田んぼづくり、お飾りづくり・餅つき等
2. 自然の循環体験ひろばづくり
太陽光パネル・雨水タンク設置、水路づくり、生ごみの堆肥化等

まちなか・子ども基地運営委員会

代表者 牧 悦子

連絡担当者 皆木 憲吾

住所 〒708-1125 岡山県津山市高野本郷 955-1

TEL 0868-26-6204 FAX

e-mail minagi@tv.t.ne.jp

ホームページ

活動対象地域

岡山県津山市

面積：506.36km²

人口：111,000人



活動の特徴・ポイント

1. 中心市街地の活性化と環境活動を組み合わせた
2. 子どもを主体としたまちなかでの平易な環境活動
3. 農業従事者とまちなかに居住する子どもの交流等
新たな世代間交流の創出

1. 活動の背景・目的

1) 地域の状況、課題およびニーズ、活動のきっかけなど

私たちが活動している岡山県津山市は岡山県の県北に位置し、人口11万の地方小都市です。中心市街地は今から400年前、城下町が形成され、基本的にその町割りを現在に伝えコンパクトな市街地を形成しています。

しかし、近年のモータリゼーションの進行により、全国の地方都市に見られる中心市街地の空洞化が進んできました。郊外型ショッピングセンターの進出や公共施設の郊外への移転、郊外の田園地帯の区画整理による人口流出など、全国の地方都市と共通の課題を抱えています。

これに対し津山市では、再開発の手法で活性化を目指しました。1999年、17年の歳月と約300億円をかけて再開発事業が完了し、活性化が期待されたところですが、実態は巨大なビルが中心市街地に出現し、従来の商店街は分断され、再開発ビルに顧客を奪われるなどますます空洞化が進んでいくといった厳しい状況となっています。

津山市の中心市街地は城下町の町割りを今に伝え、コンパクトな市街地を形成、ヒューマンスケールの空間を構成しています。こういった状況の中、このコンパクトさとヒューマンスケールを再評価し、まちの活性化に繋げる取り組みも始まっています。

2000年には、既存の駐車場を活用し資源ごみのリユース施設「リユースプラザ津山『くるくる』」を津山市が開設しました。その運営母体として市民組織「エコネットワーク津山」が発足しました。エコネットワーク津山は、リユースプラザ津山『くるくる』の運営だけでなく、中心商店街を会場に環境啓発のイベント「親子エコフェスタ」を継続実施しています。2004年には廃食油を燃料化し、コミュニティバスに利用する取り組みや空き店舗を活用したまちづくり拠点の実験的開設なども行っています。



リユースプラザ津山『くるくる』

また、2004年にはまちの活性化を考える市民組織「津山まちづくり本舗」が結成され、“環境”だけでなく様々なテーマ毎の取り組みも始まっています。この間、市民や地元商業者によるスローフードの店「こだわり本舗」やチャレンジショップの開設、行政によるまちづくりの拠点「まちなかサロン『再々』」の開設などが実施されてきました。

私たち「まちなか・子ども基地運営委員会」(以下「子ども基地」と呼びます。)の活動もこの津山まちづくり本舗の“子ども”をテーマとした活動の中から生まれました。

「商店街は子どもたちの遊び場だった」といった昔の商店街の様子を知る人の発言から商店街に子ども達の基地づくりをしようと取り組みが始まりました。

2. これまでの実績

文部科学省の「地域子ども教室推進事業」を活用し、2004年春より月2回土曜日の午後、商店街にある空き店舗と空き地を使って、子どもたちの居場所となる「まちなか・子ども基地」を開設してきました。2005年度は、月1回の土曜日と平日の水曜日に開設しました。地域の伝統



親子エコフェスタの案内



まちなか子ども基地の案内

行事の体験やお年寄りとの交流、囲碁やけん玉、コマ回し、さおり織りの体験など、まちの大人が講師となり体験と交流を深めてきました。

2005年度末には、子ども基地が拠点としてきた空き店舗と空き地を津山市が取得し、平成2006年4月に「まちなかサロン『再々』」(以下「まちなかサロン」と呼びます。)と「ラビリント広場」(以下「広場」と呼びます。)としてオープンしました。整備にあたっては子ども基地としての意見も提案し、ある程度提案を取り入れた内容となっています。管理は津山市の中心市街地のTM 組織である「津山街づくり株式会社」が行うこととなりました。

3. 助成年度の活動内容

2006年度(助成年度)、子ども基地は中心市街地に新たに整備されたまちなかサロンと広場を拠点に活動することになりました。

津山市の中心市街地には水辺空間がありません。また、地球温暖化が叫ばれる中、自然エネルギーや雨水の再利用など自然の循環の仕組みを有効に活用していくことが必要です。子ども基地では“環境”をテーマとした活動を行っているエコネットワーク津山と連携し、中心市街地に自然の循環が体験できる環境学習の拠点づくりをめざして活動を行いました。活動はまちなかでの環境学習活動の展開と「自然の循環体験ひろば」づくりの2つの柱で実施しました。

環境学習活動の展開

「ラビリント」づくり(4月)

空き地を利用し始めた3年前、津山まちづくり本舗と子ども基地が共同して迷路(ラビリント)を製作、子ども達が遊んでいました。その迷路が整備工事で取り壊しになったため、新たなラビリントの製作を行いました。(2006年3月25日から作業開始)

迷路に玉石を埋め込む作業を子ども達と一緒に

行い、直径7メートルの迷路を完成させました。9月には、中心部へ記念の銘板の設置を行いました。

親子エコフェスタでの自然エネルギーの啓発(6月)

6月に岡山県、津山市などが主催する「親子エコフェスタ2006」が開催されました。こども基地も実行委員会に参加し、当日は広場を会場にソーラークッキングや火おこし体験などを実施し、自然エネルギーの役割、大切さを啓発しました。



親子エコフェスタでのソーラークッキングの様子

菜園づくり(5月～)

広場の一角に津山市との協議の中で菜園スペースが設置され、子ども達と一緒に菜園づくりを行ってきました。毎週水曜日の午後、まちなか・子ども基地を開設しており、集まった子ども達とミニトマトやスイカの植え付けを行いました。夏には多くのミニトマトや大きなスイカを収穫することができました。

バケツ田んぼづくり(5月～10月)

菜園づくりとともに「バケツ田んぼ」の取組みを行いました。

4月にもみ撒き、5月にバケツに土を入れた田んぼに植え付けを行いました。生育状況の観察を行いながら、9月の中旬には稲刈りを行いました。農家の方のお話も聞きながら、お米をつくることの大切さ、



ラビリントの製作(中央に銘板を設置すれば完成)



稲穂がたれ始めたバケツ田んぼの様子

大変さなどを学習することができました。

さらに秋には収穫した稲の脱穀(割り箸にはさんで籾をそぎ落とす)もみすり(すり鉢とソフトボールを使って)などを実施、10月には採れたお米で収穫祭を実施しました。収穫祭では、おにぎりとお汁を子ども達と一緒に作って収穫を喜びました。



収穫祭でのおにぎりづくり

バケツ田んぼについては、小学校の授業で体験している子どももいましたが学校とは違った環境で育てることに興味を示していました。また、商店街を訪れる方も興味深く観察されていました。

お飾りづくり・餅つき(12月、2月)

さらに、12月には稲藁を使って正月のお飾りづくりを実施しました。講師は農家のお年寄りをお願いし、お米を収穫するだけでなく、稲藁も有効に活用されていることを学ぶことができました。バケツ田んぼの稲も大きなお飾りとなり、まちなかサロンの玄関に飾られました。

年があけて2月、バケツ田んぼづくりのプログラムの最後として広場で餅つきをしました。初めて杵を握った子ども達がほとんどでしたが沢山のお餅がつきあがり、あんこ餅、黄粉餅、雑煮などに舌鼓をなりました。



お飾りづくりの様子

「自然の循環体験ひろば」づくり

ひろばの仕組み

自然の循環体験ひろば(以下「ひろば」と呼びます。)は菜園、池とせせらぎ水路、濾過槽などで構成されます。太陽光パネルを設置し、太陽光発電による電気でポンプを動かし、池の水が循環する仕組みです。雨水タンクも設置し、雨水を池に補給したり、菜園の散水に利用します。菜園には家庭の生ごみを堆肥化し投入、資源循環も図っていく仕組みです。

ひろばづくり(7月~)

7月よりひろばづくりを始めました。

7月から8月にかけて2回のワークショップを開催しました。暑い中、子ども達も手伝いながら池を掘ったり、水路づくりを行いました。その後、雨水タンクや太陽光パネルの設置も行い、雨水をためた池の水が太陽光のエネルギーによって循環する仕組みが、9月にはほぼ完成しました。

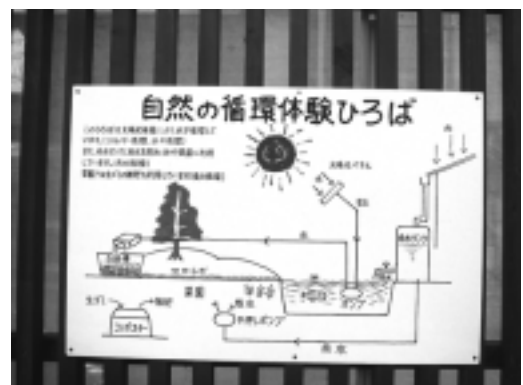
しかし、せせらぎ水路は会員、子ども達による素人工事のため、水が漏水するなど不具合も生じ、やり直し工事を行いました。秋には池の周辺に植栽を配置、水が循環する仕組みを紹介した案内看板も設置しました。



循環ひろばづくり

生ごみの循環(3月~)

生ごみ循環については、当初、菜園の一角に堆肥



自然の循環体験ひろばの看板

施設を作り各家庭より生ごみを持参していただく方法を考えていましたが、生ごみを広場に持参することは管理上問題があり、相談の結果、各家庭で堆肥化を進め、できあがった堆肥を菜園に還元することになりました。

家庭での生ごみの堆肥化の最も簡単手軽な方法としてダンボールコンポストに取り組みました。商店街のおかみさん会の方々に呼びかけ、ダンボールコンポストの講習会を開催、現在、各家庭で実践されています。ダンボールコンポストが一杯になった状態で菜園に還元する予定です。



ダンボールコンポストの講習会の様子

4. 活動の成果と課題

1) 目的・目標の達成度

今回の活動は、中心市街地に子ども達と一緒に自然の循環を体験するゾーン「自然の循環体験ひろば」をつくるとともに、ひろばで稲作りや野菜づくりを体験し、これらを体験する中で自然の大切さ、仕組みを学んでいこうとする取り組みでした。

津山市は、周辺が田園地帯で、多くの市民が農家ですが中心部の子ども達はそのほとんどが農家とは無縁の世帯です。小学校の授業でバケツ田んぼを体験した子ども達もいましたが、ほとんどが稲作りや

野菜づくりは初体験で、新鮮な取り組みでした。大人にとっても、バケツで稲が育つことは驚きでもありました。



ひろばに設置された雨水タンク

ひろばづくりでは、猛暑の中、池堀りなどの作業を行っただけに、太陽光パネルを設置し、池の水が循環したときには、感動をもって受け止められました。

ただ、太陽光発電や雨水利用などテーマが小学生には難しく、取組みの意図するところが充分伝わらなかった点などが反省材料としてあげられています。

また、ひろばづくりにおいては、場所の管理者である津山市との調整に時間がかかりました。池やせせらぎ、太陽光パネル、雨水タンクなどを設置することは一団体が公共施設に占有物を設置することになり、その設置に管理者である津山市が難色を示しました。しかし設置の趣旨などを話し、規模も当初より縮小することで理解を得ることができました。

2) 地域内外への波及効果

今回の活動は、太陽光発電や雨水利用の中心市街地への普及へのモデル的取組みとしても実施しました。手軽に太陽光発電や雨水利用ができることが理解され、自主的に設置される家庭もわずかですが生まれています。

太陽光発電が手軽に体験できるパネル等も作成し、普及に努めています。

3) 活動の継続性

子ども基地の活動は文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」(2007年度より名称変更)の一環として2007年度以降も継続実施します。ひろばの再整備(池の補強)や菜園での野菜作り、ソーラークッキングなど自然体験や自然エネルギーの啓発を継続実施していきます。

4) 活動推進に必要とした資源(人材・情報・資金・ネットワーク等)の活用方法

今年度の活動は、環境団体「エコネットワーク津山」や中心市街地の活性化をめざして活動している「津山まちづくり本舗」、商店街のおかみさん会など



バケツ田んぼで収穫した米を使用した餅つき

との協力、連携のもと実施しました。

また、バケツ田んぼの取組みでは広場で開催されている朝市に出店されている農家の方に協力いただき、稲作りについて指導していただきました。お飾りづくりも農家のお年寄りの方に講師になっていただきました。こういった人的ネットワークは今後の活動にも活かしていきたいと考えています。

活動資金については、H & C 財団からの助成に加え、子ども基地の通常の運営については文部科学省の「地域子ども教室推進事業」の助成を受けました。2007年度も引き続き同事業の助成を受け子ども基地の開催を継続していきます。ただ、ひろばの維持管理や再整備などでは別途資金が必要であり、その確保は今後の課題です。

5 . 今後の展開

1) 団体や活動の方向性・将来像

2006年度テーマとした中心市街地での環境学習の拠点づくりについては、今後、施設の維持管理やバージョンアップ、他の施設との連携などが課題となります。本ひろばだけでは環境学習の拠点としての役割はまだ弱く、エコネットワーク津山が運営しているリユースプラザ津山『くるくる』やスローフードの店「こだわり本舗」などと連携し、中心市街地に何箇所か拠点を配置し、それをネットワークすることにより環境学習機能を高めたいと考えています。エコネットワーク津山が一昨年実施した廃食油を燃料化する事業も再開される予定です。それらを巡るマップなども整備し、小学校の校外授業の一環として利用できるプログラムが開発できればと考えています。

将来的には、再開発ビルの屋上に市民共同発電所を設置したいなどの構想もあり、まちなかを“環境”や“エコロジー”をテーマに繋げていきたいと考えています。

2) 目標とする組織体制・資金計画

中心市街地の活性化のためには、地元商店主だけでなく、いろいろな主体が関わる必要があります。今後も様々な団体や個人がゆるやかに協力・連携できる体制で活動していきたいと考えています。

また、今後の資金計画については、新たなテーマ毎に助成や市民募金などの方法で資金確保を求めていくこととなります。



ラビリントの中央に銘板を設置

